

新たなごみ処理施設

世界に誇れる施設めざして

施設の配置は

施設の配置については、ごみ処理施設と管理棟、またいろんな催しに使える広場などを配置していくこととし、県道野間出野一庫線から田尻川に新しく架ける橋を渡り、構内道路を通り施設部分に入る計画です。

施設の外観は、周りからの景観をできるだけ配慮して、建物全体を山側に配置し高さも抑えらるとともに、焼却施設、リサイクルプラザ、管理棟と高さのある建物を北から南の方向に階段状に配置をし、さらに、その屋上を緑化したり構内

配置や施設内容の考え方

道路等の斜面なども緑化して、周辺の山林と調和する緑あふれる施設としていきます。

焼却施設は

焼却施設については、1日当たりの処理量117・5トンの炉を2炉配置し、1日235トン焼却できる施設の規模とする計画です。焼却方式については、安定した運転の実績があるストーカ炉を採用し、これに最終処分物の減量とダイオキシン類や重金属類による汚染を防止するため、灰を熱で溶かす溶融炉を付ける

リサイクルプラザは

リサイクルプラザについては、排出された空き缶やビン、ペットボトルなどの選別や圧縮する機械類を設置していきます。

また、啓発施設として、粗大ごみで出されたもので手を加えれば十分使えるも

こととしています。そして、これらの機器を安全にまた、安定的かつ効率的に管理運転するため、できるだけ自動化を取り入れていく計画です。

焼却により排出されるガスについては、その中に含まれる細かな灰を高性能のろ過式集じん装置で除去、その後湿式有害ガス除去装置、そして窒素酸化物除去装置で有害な物質を除去し、清浄なガスとして煙突から排出します。また、焼却で得られる熱については、ボイラー装置で蒸気を生じさせ発電や施設内外での有効利用を考えていく計画です。

管理者・副管理者の決意

柴生 進 管理者(川西市長)



21世紀は環境の世紀と言われています。しかし、毎日大量のごみが排出されています。ごみの少なさが文化水準のバロメータと言われています。ごみの減量化やリサイクルをより一層推進して、この猪名川流域に住むすべての皆さんが、安心できるごみ焼却施設を一日も早く完成するために頑張ります。

真田 保男 副管理者(猪名川町長)



ダイオキシン問題を契機として、猪名川上流の1市3町が地域環境や地球環境をも視野に入れ、ごみ処理の広域化に取り組んでから早や7年目になりました。この施設は、循環型社会構築に向けたごみ処理の長期的展望に立った施設として、早期の完成が望まれています。今後も管理者・副管理者ともども力を合わせ事業推進にとりくんでいく所存です。

日下 櫻子 副管理者(豊能町長)



豊能町の可燃ごみは、近隣の北摂各市並びに大阪市の好意により焼却処分をしていただいておりますが、既に7年が経過しております。それぞれの市にもご事情があり、私といたしましては、いつまでもご迷惑をおかけするわけには参りません。一日も早く施設の完成を目指し、住民の方々のご理解を得ながら本事業がスムーズに進行するよう頑張っております。

中 和博 副管理者(能勢町長)



私はこの度、能勢町長として本組合副管理者に就任することになりました。ダイオキシンで苦しんだ町の代表として、多くの方との会話、交流を持ちながら、単なるごみ処理施設ではなく、循環型社会の構築、地域環境・地球環境の保全に貢献できる施設として鋭意取り組む所存です。ご理解、ご協力をお願いいたします。

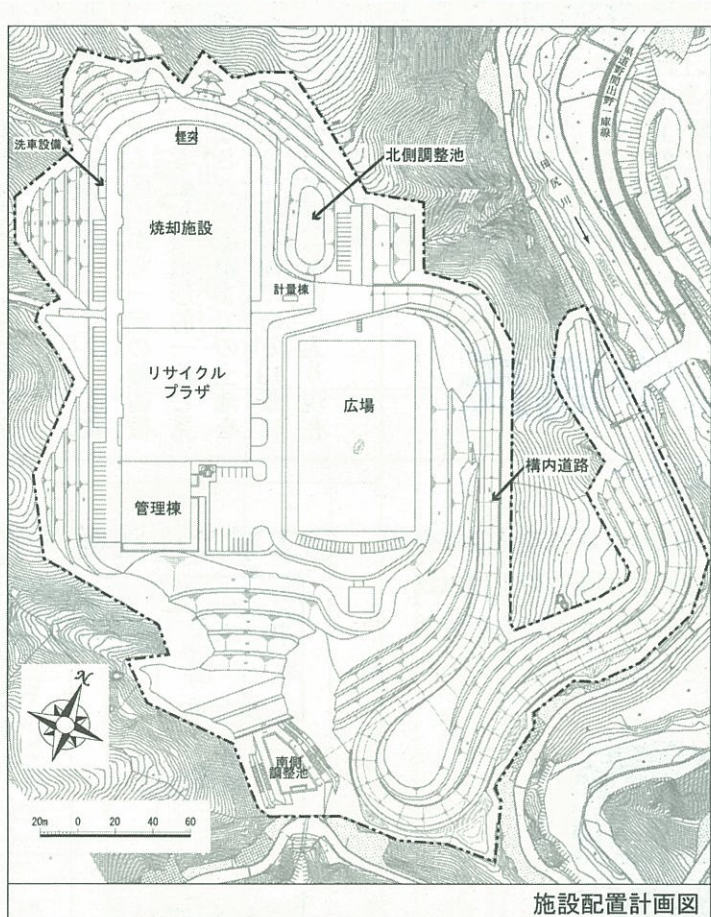
周辺の山林は

この事業地では、施設が建設される用地や広場などの外に、自然環境の保全を

のを修理するための工房や、必要に応じて教室が開催できる多目的工房、その他修理されたものを展示するスペースを作るほか、ごみの問題だけでなく広く環境問題を学習できるスペースなども確保する予定です。

目的として十分な緑地を周囲に確保していきます。

この緑地は、古くから地域の人がまきや炭の用材として利用してきた里山でしたが、生活環境の変化により放置され荒れてきている状況です。こうしたことから、住民の皆さんのご協力を得て、地域を代表するコナラやクヌギなどの落葉広葉樹林が維持保全されるよう適切に管理し、動物の生息環境などの保全を図るほか、環境問題を考える場として利用していく考えです。



施設配置計画は、焼却施設、リサイクルプラザ、管理棟を造成区域西側(山側)にまとめ、周辺に道路、緑地を設ける計画としています。

